

【令和4年度豊野高等専修学校運営の反省】

1 教育課程について

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

①「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を状況に合わせて改定して対応

②行事への対応

・参加生徒数、外部参加者の制限（入学式・卒業式・いばら祭・始業式・終業式・PTA全体講演会等）で対応。

・いばら祭は3年ぶりに一般公開。参加者多数で大成功。

・修学旅行・宿泊訓練・校外学習・デザインフェスタ等は予定通り実施。

③本校生徒・保護者・職員の感染者等への対応

・濃厚接触者の特定、県への報告

※5年度当初より、マスク着用は各自判断等の大幅緩和

(2) 生活総合学科

①週5日制6時間日課

・専門コースは火、木、金に各時間、月曜日は体育。

・水曜日の3校時は『総合的な学習の時間』、午後は専門補充（2時間）と職員会
・生徒理解・研修等を位置付ける

・部活動（スポーツ吹き矢・バドミントン・バスケット・ボイスサークル・ドローン・パソコン・和BKT・購買・ボーカル&軽音楽）は木、金の6校時が原則だが、施設利用、複数部活希望者の関係でそれ以外の日でも実施するなど柔軟に対応。

〈課題〉

◇専門課程とのつながりを深める

・同一敷地内にある良さを生かし、高等課程の授業、行事等に専門課程の学生が参加しやすいようにする。

・専門課程の参観、説明会等への生徒の積極的な参加を促す。

②専門コース

・生活服飾コース

・生活情報コース

・生活美術コース

・介護職員実務者研修コース ※3年目（実務者研修資格取得者 6名

〈課題〉

◇入学者数の増加につれ各コースの希望者数に偏り

・情報、美術の増加、和裁の減少など。

・コースの魅力をより前面に出した授業実践（特に和裁）と体験学習の実施

・入学予定者に対する複数の希望コースの設定による調整

・そのコースが好きな生徒の身を受け入れる募集活動の厳格化

◇募集定員を超える入学者への対応と募集要項の改善

・本校の良さ（少人数・専門コースの存在等）をスポイルせず、限られた教室数、

教員数に対応できる募集要項の改善

(3) 技能連携コース① (A組) 【79名】 ※生活総合 (本校のみ) 【30名】

○本校の生活総合コースが中心の学習の技能連携

- ・本校とさくら国際の両方の卒業が可能
- ・技能連携②への移動を年度途中でも認めるなど、柔軟に対応

〈課題〉

◇A組 (連携①) からB組 (連携②) へ移ることができる時期の検討

- ・入学者数の増加による各学級人数の上限設定の必要性

(4) 技能連携コース② (B組) 【39名】 ※生活総合 (本校のみ) 【30名】

○さくら国際のレポート中心の学習と体育、専門コース (さくら国際の単位認定)

- ・始業時刻に登校しなくていいなど、自分のペースで学習できる良さ
- ・技能連携①との移動を年度途中でも認めるなど、柔軟に対応

〈課題〉

◇連携コース② (B組) でしかできない実践や内容の充実

- ・午前はレポートだけの授業にせず、担任が実践内容を工夫して、A組ではできない授業を実践し、B組の魅力を増やす。

(5) 専門課程

○服飾造形コース・和裁コース

- ・4年度の入学者3名 ※本校卒業生
- ・洋裁と和裁の両方の学習ができる選択制の導入
- ・高等課程にはない授業内容を取り入れ、授業の幅を広げ、魅力度アップ

○情報デザインコース

- ・4年度の入学者4名 ※本校卒業生3名・外部より1名
- ・昨年度に引続き、「いばら祭」において情報の学生が作成したゲームが人気で高等課程での認知度の向上と「いばら祭」の定番に

〈課題〉

◇入学者数の増加を

- ・高等課程の生徒へのアピールの具体化 (説明会・いばら祭・掲示物他)
- ・オープンキャンパスの広報の徹底と平日開催の導入 (参加し易さを生かす)
- ・北信地区の高校、通信制高校へ出向いて説明などによる認知度向上
- ・高等課程3年生による専門課程の参観、説明会等の実施。

◇学習内容の見直しと改善

- ・学習の状況、学生の要望、進路希望等を踏まえたシラバスの見直し

◇進路指導の充実と就職先・進学先の確保とネットワークづくりと実績づくり

- ・企業との連携強化と拡大 (長期インターンシップ・企業の人による授業の拡大)
- ・生徒の希望に沿った企業、大学等との関係強化
- ・学生募集に生きる実績づくりと広報の充実

(6) 過年度生等について

○休学生4名 (高等課程) ※年度当初意思確認済み

2 校務分掌等について

(1) 校務分掌の再編成と推薦制の導入の2年目

【グループⅠ】

- 生徒支援の充実：《教育相談》生と相談窓口・支援会議・関係機関との連携
- 出口の見える化：《進路指導》関係機関等との窓口・インターンシップの推進・追跡
- 認知度向上：《広報》HPの更新・パンフレット等の作成・学校のアピール
- 可能性の発掘：《総合的な学習の時間》企業連携・学年の活動企画・教室使用計画
 - ：《いばらタイム》いばらタイムの企画
 - ：《プロジェクト企画》生徒が可能性へ挑戦できる環境づくり
- めざす学校：《プロジェクトN推進》令和5年度以降を見通してのカリキュラムづくり
 - ：《経営戦略》アフターコロナにおける学校の在り方・学校経営の戦略・経常費増額に向けての戦略づくり

【グループⅡ】

- ①環境（清掃・美化・暖房） ②カザス・オクレンジャー ③ネットワーク・セキュリティ
- ④生徒会の運営 ⑤部活動の運営 ⑥教科書 ⑦テスト計画・成績処理・補習計画
- ⑧さくら国際 ⑨厚生 ⑩職員研修 ⑪記録・映像 ⑫オンライン授業対応

【グループⅢ】

- ・行事 ・防災 ・式典 ・式典 ・庶務会計 ・学校評価 ・学校関係者評価
- ・同窓会 ・時間割 ・生徒募集 ・保健・救護 ・送迎車 ・教務会※
- ・指導要録・出席簿 ・月歴 ・新教育課程対応 ・PTA ・（教員）免許更新

- 推薦制（立候補も含む）を取り入れ、「やらされている感」が減り、意欲的な運営が生まれつつある。今後も継続。
- 【経営戦略】が機能し始め、共通理解のもとに学校経営、運営の充実が図られるようになってきた。
- 学校の課題や次年度に向けて話し合うテーマを決めた「プロジェクト」で、希望する職員をつのって協議するスタイルが定着。
- 文部科学省委託事業の2年目。
- 本年度も、「支援基礎票」を基に全入学者の支援会議を実施した。

〈課題〉

- ◇推薦制（立候補も含む）を取り入れ校務分掌・プロジェクトの課題
 - ・かかわり、参加の少ない職員にどう意欲的に参加してもらうか。

(2) 教科会

- 国語 社会 数学 理科 外国語 保健体育 芸術 家庭 専門情報 専門服飾 専門美術 専門介護 特別活動 キャリア
 - ・授業改善、生徒理解を進化するための研修の実施
 - ・校長による日常的な授業参観と指導
 - ・来校者、中学生による日常的な授業参観の実施
 - ・非常勤の先生も含めた教科会の充実
- 教材研究の時間の明確化

- ・非常勤の先生方に教材研究の時間を明示し、授業改善への意欲向上を図った。

〈課題〉

◇「魅力ある授業づくり」と、そのための一層の「授業改善」が必要

- ・授業改善に生きる生徒による「授業評価」の実施
- ・授業研究会の実施、授業改善にかかわる研修の充実

(3) その他

◇同窓会について

- ・総会のあり方、会員への情報の流し方など、情報化時代に合った形に
- ・同窓会会員の経験を生かす取り組みの企画、実践（会員による講演、授業等）
- ・総会等の場を利用しての新校舎や本校の現状の紹介をどう実施するか。

◇各メディアへの本校の情報の発信（認知度の向上）

- ・広報の係で推進

【学校経営の立場から】

1. 新校舎の利用について

生徒・学生にとって有効活用できるように企画推進を行う。

地域の方々にとっても利用していただくよう、地域への呼びかけを行っていく。

※長野県ふるさとの森林づくり賞「信州の木利用推進の部」県知事賞をいただいた。

★多くの地域の皆さんに本校新校舎を利用いただいた。

2. 経常費増額の県への働きかけ

○生徒一人あたり 46,440 円という大きな格差は是正されないままである、今後あらゆる場面や状況を活用して増額を働きかけていく。

★特別地方交付税（財政措置）を利用した経常費増額に関する要望書（全国高等専修学校協会の全国展開事業）を長野県専各連理事長事務局長とともに私学振興課課長に手渡し、知事へ渡すことができた。今後の推移については報告をいたします。

3. 通信制の導入(技能連携は継続)

○通信制高校への進学者数が高い水準にある。本校はさくら国際高等学校の「技能連携施設」として「豊野高等専修学校」が県から認可いただいている。

○さくら国際高等学校の「豊野キャンパス」としても、県に認定いただいている。

○上記より、豊野高等専修学校としての生徒募集は従来通り継続する。(単位制 150名)

○新たに「さくら国際高等学校 豊野キャンパス校」として通信制として生徒募集を行う。(通信制 40名)

○さくら国際高等学校の経営母体である上田煌楼学園の3月理事会において、豊野キャンパスとしての生徒募集については認められている。

4. 通信制の導入に伴う通信制に係わる校名の変更

○さくら国際高等の内規には「1市に1キャンパス」という規定がある。

豊野キャンパスは長野市にあるため、さくら国際高等学校の他の施設は「キャンパス校の設置」はできない。

○よって、長野市にある「キャンパス校」という意味において、「さくら国際高等

学校「長野キャンパス」と名称を変更したい。

★通信制高校「さくら国際高等学校長野キャンパス」が4月よりスタートした。

★在籍生徒7名からのスタートであるが、高校で不登校になっている生徒の受け入れ、
中学で不登校になっている生徒の受け入れを進めていく。

5. 須坂市との連携協定の具体的推進

須坂市との連携協定が締結されています。連絡協議会を設置し連携できる分野を推進する。小布施町も関心を示してくれています。推進したい。

★今年度市川校長が中心となってすすめていく。

6. 文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」(学びのセーフティネット機能の充実強化) 令和3年度「高等専修学校生が社会に定着するための教育現場の最適化とICT活用による学びの創出事業」プロポーザル方式で受託ができ1年目を終えた。次年度も継続して進めていく。

7. 専門課程の充実に取り組む

①専門課程において「文化・教養分野における『文化創造学科』の新設」が認可され3年目がスタートする。引き続き、本校高等課程から専門課程への進学者を増やす必要がある。そのためには、魅力ある専門課程の教育が必要不可欠である。高等課程と専門課程をもつ本校の特色を生かす今後の方向について十分な検討を行う。

②服飾・和裁コースの充実と学生数の確保。

専門課程 服飾・和裁コースの新入生数が3名。2年生の服飾コースは3名。計6名本校の一番の特色であるコースである。魅力ある専門課程のあり方と学生募集の工夫を全職員で検討する。定員の60%の確保を目標とする。

★山岸慎一郎副校長を中心として、専門課程の定員充足率50%を絶対達成目標として全力ですすめている。

★本校高等課程からの生徒の受け入れに力を入れる。

★長野市内通信制高校からの生徒の受け入れに力を入れる。

8. 介護コースの充実

①介護実務者研修施設として県から認可をいただき3年目がスタートする。社会福祉協議会との連携や地域の介護施設等との連携システムを構築し、インターンシップ等充実した介護コースカリキュラムを作成する。

②社会人対象の働きながら学べる「通信制実務者研修コース」を設置した。一昨年12名の受講者、昨年2名の受講者があり。令和4年度も実施する。

9. 生徒募集のあり方

①専門課程について

○令和2年度よりAO入試も採用した。令和4年度も継続していく(早期学生の確保)

○一般入試は今まで通り実施する。(推薦入試も同様に継続)

○本校高等課程から専門課程への受け入れを積極的に勧める。

○本校専門コースの特色の周知をはかる。

○高等学校への本校の周知・徹底をはかる。(訪問)

専門課程への本校以外からの学生の受け入れ。

○通信制高等学校への働きかけを積極的に行う。

- 他の専門学校を中退した学生の受け入れも検討する。
- ②高等課程について
 - 中学校保護者会などへの参加を行い、本校の特色と説明を行う。
 - 中学校への積極的な働きかけの必要性。（訪問）
 - 個別相談の早期からの取り組みと、継続した相談による本校進学の意味確認を行う必要性。他の広域通信校、他の私立の募集のあり方も要検討。
 - 高等学校からの中途退学者の受入。
 - ※入学金免除の特例措置を実施している。
 - 更埴地区の中学からの生徒の受入。継続して働きかけを行う。
 - 令和4年度も優先入学を中心に生徒募集を行う。50名以上の生徒の確保。
 - 一学年定員の増について。
 - ・本校を必要としている生徒が増えている。その対応ができるように一学年定員を60名とするよう申請する。

★高等課程においては教育の質を低下させないよう、定員の調整「1学年50名程度」を目安として募集を行う。

10. 不登校生及び不適応をかかえている生徒に対する指導。

- ①次世代サポート課の「困難を有する子ども自立支援」を継続して取り組む。
- ②県民文化部「特別な措置が必要な生徒」対象の補助金を継続して取り組む。
- ③研修会の設定により、教師の力量の向上をはかる。

★次世代サポート課、私学振興課からの補助金は学校経営上大変ありがたい補助金となっている。継続していく。

11. 進路指導について

※本校高等課程から専門課程への進学を最優先事業とする。

早期からの「本校専門課程の魅力」の発信

- ①指定校推薦や推薦の枠を広げられるよう、大学等へ積極的にはたらきかける。
- ②採用企業の開拓と企業と連携した教育活動のあり方の検討。
- ③「応援企業」をつのり、インターンシップ及び就職活動に繋がる取り組みを行う。
- ④文部科学省委託事業を利用して、卒業生の後追い事業（卒業後の支援体制の充実）をすすめる。

12. 地域との協働活動

- ①豊野駅に関わる活動を広げる。
 - 豊野駅美化活動。豊野駅と連携した本校生徒のボランティアとしての参加ができな
いかとの打診があった。
 - 花のプランターの設置と世話。（生徒会）
- ②無理のない範囲で地域との協働活動を進める。地域「農家」との交流及び働き手としての体験学習(アルバイトも含む)を進める。

13. 学校環境整備について

- ①第二校舎の積極的な活用をすすめる。
 - 介護福祉士実務者研修施設として使用。
 - 介護初任者研修施設として使用。

※清掃等管理面を責任を持って行いたい。(具体的対応策を提示する)

②環境整備

○専門課程2階のリフォームを行う。専門服飾室として利用予定。

○令和4年度予算に計上する。

★専門等のリニューアルを行った。学習環境が整備されたことによる教育の充実をはかりたい。1階「服飾デザインコース和裁室」2階「服飾デザインコース服飾室」3階「情報デザインコース」。

14. 生涯学習の実施

○県専各連、長野市専各連主催の「生涯学習講座」「学べるキャリア出張講座」の開設。

15. 「寄附部会」の継続的推進

※寄付控除の周知と呼びかけ

○特定公益増進法人として認可

○税額控除法人として認可

○寄付に値する地域への貢献、専門的人材の輩出。

16. 自己評価の実施、関係者評価委員会の設置

○「学校関係者評価委員会」実施。ホームページへの掲載。

○学校関係者評価委員会からの発信が本校への信頼度を高めることとなる。

★高等課程においては今まで通り継続実施。(校内情報の開示を行う)

★専門課程において令和4年度より「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」を設置して教育の充実にも取り組んでいる。(校内情報の開示を行う)

17. その他

① 補習授業受講生徒・学生に対して経費を徴収する。(継続)

補習授業を実施するには、非常勤の先生も出勤して授業を行う必要が生じる。

そのため、経営的には計画外の支出となるため、補習1時間につき500円を徴収する。(平成31年度より実施)

第2号議案 令和4年度収支決算報告について